

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105149
法人名	有限会社 パッション
事業所名	グループホーム かすが
訪問調査日	2008/3/15
評価確定日	2008/5/23
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105149		
法人名	有限会社 パッション		
事業所名	グループホーム かすが		
所在地	鹿児島市春日町8番25号 (電話) 099 - 248 - 1058		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年3月15日	評価確定日	平成20年5月23日

【情報提供票より】(19年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人, 非常勤 7 人	常勤換算 11.76人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	一日 1200 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり1100円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	9 名	要介護2	4 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松岡医院・中馬歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道を少し入った閉静な住宅地に開設されているホームは周囲の建物に違和感なくモダンな佇まいのホームである。管理者、職員は理念を原点とし利用者のなじみの生活の継続と息を大切にしながら、自然体で寄り添っている。明るく優しい職員などに囲まれて日々を暮らしている。利用者は個別にノートを持ち、一日のお天気情報を書き、その日の出来事を記録している。音楽に合わせて毎朝行われている歩行練習の成果は車椅子使用の利用者が自力歩行出来るようになり、また利用者同士支え合っている姿や、お互いの事に関心を持ちながら日々を暮らしている利用者の様子は、職員・家族などにとって喜びと励みになっている。地域資源(神社、海岸、河、公園)や地域住民との交流など利便性を大いに活用しながら、独自のホームカラー作りと地域密着型サービスのホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念はパンフレットや説明文書に明示されている。金銭管理は出納帳で管理し定期的に家族などに報告して確認印をもらっている。内・外の研修会に参加して、ミーティング時に職員に研修報告をして記録に残し改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。改善課題をミーティングで話し合いサービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会長、包括支援センター職員、利用者、家族代表などの参加を得て定期的に開催されている。ホーム玄関は昼間、施錠なしになっているが無用心ではないかとの意見が出され、利用者に対して施錠する事の弊害を理解してもらえるよう回答し、ホーム運営の理解を得られるように努め、協力関係を話し合っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設けている。家族などの来訪時に近況を報告しながら意見や要望を出してもらえるよう努めている。家族などとの会話の中で得られた意見や要望などはミーティングや運営推進会議で話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、班長の役割を経験している。町内会の一員として回覧板を利用者と一緒に回覧したり、神社の掃除に参加している。また、学校の文化祭、運動会の見学やバザー、保育園の誕生会や園児との七夕の短冊づくり、近隣住民、知人の来訪など多くの交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々と共に、その人らしく暮らせる支援を理念として職員全員で確認し家族や地域との交流を重視した理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	来訪者に分るように理念を玄関や説明文書に明示している。日々の申し送り時や毎月のミーティング時に理念を確認し共有化をはかりケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し班長の役割を経験している。町内会の一員として回覧板を利用者と一緒に回覧したり、神社の掃除に参加している。また、学校の文化祭、運動会の見学や、バザー、保育園の誕生会や園児との七夕の短冊作りや近隣住民、知人の来訪など、多くの交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全職員で評価に取り組みケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。また、課題をミーティングで話し合い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、包括支援センター職員、利用者、家族代表などの参加を得て定期的開催されている。ホーム玄関は昼間、施錠無しになっているが、無用心ではないかの意見が出され、利用者に対し施錠する事の弊害を理解してもらえよう回答しホームの運営の理解を得られるように努め、協力関係を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口や高齢者福祉課に障害者手続きや後見人制度について相談し、助言を貰うなど行政機関と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月行事予定表の配布と家族などの来訪時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。遠方の家族には通信や電話などで報告し、金銭管理は出納帳のコピーと領収書で報告しサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。家族などの来訪時に近況を報告しながら意見や要望を出してもらえよう努めている。家族との会話の中で得られた意見や要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個別担当者を決めているが、全職員が全利用者に関わる体制で支援をしているためなじみの関係が出来ている。やむをえない異動の場合にはダメージを受けないように十分な配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域のグループホーム協議会の勉強会や研修に交替で参加している。月1回他施設の勉強会や内部の勉強会も行っている。研修後の報告により職員は共有し、技術や知識の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと勉強会をしたり、相互訪問やボランティア・行事などに参加して職員との交流や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には在宅や施設に面会に行き生活歴の把握に努めている。見学をしてもらいなじみながら信頼関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に家族として寄り添い、触れ合う事を大切にしている。昔の歌を唄ったり、お菓子作り、味付け、野菜植えと収穫など一緒に行い教わったり、歓喜しながら良好な関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの表情や言動を観察して思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族などから思いや要望を聞き、モニタリングやカンファレンスで職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別記録を元に職員は申し送り時に情報を共有し、評価をして定期的(半年毎)な見直しをしている。状態変化の際は話し合いをし、その都度の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族などの状況に応じて病院受診、墓参りや法事などの個別の外出支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム全体の支援方針は明文化されていないが、利用者に応じて重度化や終末期に対して家族、医師と話し合いをもち職員も共有化している。		重度化や終末期の統一した対応方針を定め、職員の共有化が求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。また、居室ドアの透明ガラス部分はのれんを掛けるなどの配慮をしてプライバシーが守られている。職員採用時に誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴時間や外出や散歩、レクリエーションなどその人の体調や生活リズムに留意しながら、柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら献立をしている。できる事をしてもらいながら、職員も和やかな雰囲気の中で一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴支援をしているが体調や本人の希望に応じた入浴支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、習字、工作、ぬり絵、野菜の種まき、花植え、収穫など、利用者の趣味や特技を發揮できるように支援している。また、墓参りやデパートめぐりなど気晴らしの支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物、神社や近くの公園に出かけている。また、ドライブをかねて、ソーメン流しや、外食、バザーなどに出かけ、ホームに閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員はカギをかける事の弊害を理解している。プライバシーに配慮しながら安全確認に努め自由な暮らしができるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼間、夜間想定避難訓練、防災訓練を行っている。また地域住民、民生委員との協力関係も出来ており、災害時の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な体重測定と水分量、摂取量の記録により一人ひとりの状態の把握に努め、身体状況に応じて食事形態を考慮している。栄養バランスは主治医や看護師のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は広く温度調節や換気、掃除など行き届いており和室や洗面所、トイレなど身体機能を活かし、自立した生活が送れるよう配慮が行き届いている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、TV、タンス、籐椅子、テーブルなどそれぞれなじみの物が持ち込まれて、安心して生活を楽しんでいる。また、身体状況に応じた居室選びも出来るように支援している。		